

## 学校経営推進費 評価報告書（2年目）

標記について、下記のとおり提出します。

## 1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	生徒の希望する進路の実現
評価指標	①② 就職1次内定者率の向上及び就職内定率100%の継続 ③ 国公立大学進学者数の増加 ④ 難関私立大学進学数の増加
計画名	「夢！実現プロジェクト」

## 2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	3. 「志」や「夢」の実現に向けた指導計画の確立 (2) ア 個々の進路希望に応じた情報提供を適切かつ迅速に行うとともに、進路実現に向けた取組みを実践し、成果を上げる。 * 難関私立大学合格者（H25 13名→H26 12名）を平成29年度には20名以上に。
事業目標	本校のミッションは、多岐にわたる生徒の進路希望（四年制大学、短期大学、専門学校、就職、公務員）に対して、一人ひとりの可能性を引き出し、よりよい進路実現を果たすことである。 3年間という限られた時間を最大活用するため、H25より「3年間のトータルキャリアプラン」を作成し、実践してきており、国公立大学入学など確実に成果を上げてきている。そこでさらなる成果を上げるため、下記の強化ポイントを備えた室の整備を行う。
整備した 設備・物品	(1) PF-NOTE本体及びオプション (2) カメラ及び音声キット (3) キャスター可動式受講机 (40台) (4) スタッキング式受講用チェア (40脚) (5) 短焦点プロジェクター (6) 電子黒板ユニット (7) 間仕切り兼用可動展示パネルシステム (8) ホワイトボード (9) 可動式鏡 (10) ポータブルマイクシステム
取組みの 主担・実施者	(進路実現に向けての主担者及び実施者) ・ 進路指導部各パート別主担者（大学、専門学校、看護医療系、公務員、就職） ・ 授業力向上支援チーム (取組みの実施者) ・ 進路指導部、授業力向上支援チームを中心とした全教員
本年度の 取組内容	・ 授業力向上支援チームによる校内研究授業を実施した。体育で、ビデオカメラで撮影したハンドボールのシュートのフォームを生徒自身が確認して修正するという授業を行った。 (PF-NOTE、電子黒板、短焦点プロジェクター) ・ 視聴覚機器を活用した授業を年間を通じて実施した。(短焦点プロジェクター、PF-NOTE) ・ 本事業によって整備されたアクティブ・ラーニングルームは、少人数授業、進路行事、放課後や長期休業期間中の自習室として、年間を通じて活用された。 (キャスター付き机・チェア、間仕切り兼用パネル、ホワイトボード、可動式鏡、ポータブルマイクシステム)
成果の検証方法 と評価指標	① 就職1次内定者率の向上 (75%→80%) ② 就職内定率100%の継続 ③ 国公立大学進学者数 (0名→5名) ④ 難関私立大学進学数 (18名→22名以上)
自己評価	※(記号説明) 大きく上回った(◎)、上回った(O)、達成できず(△)、実施できず(x) ① 就職1次内定者率の向上 (75%→80%) ……77.8% (△) ② 就職内定率100%の継続 (◎) ③ 国公立大学進学者数 (0名→5名) ……0名 (△) ④ 難関私立大学進学数 (18名→22名以上) ……15名 (△) ⇒ 難関私立大学への進学数は減少したが、生徒自身が希望する大学に進学が決まっている。 また、これまでに合格実績がほとんどなかった難関私立大学への合格者が複数あった。
次年度に向けて	1 進路指導におけるPF-NOTE等の機器の活用推進 ・ 進路指導部及び第3学年教員に対する活用推進研修を1学期前半に実施 ・ 面接指導での活用(面接試験がある生徒1人につき最低1回は使用) ・ 生徒、保護者対象の説明会における活用(各学年で最低1回は使用) 2 授業における情報機器の活用推進 ・ 授業力向上支援チーム主催の研究授業実施(1回) ・ 授業における活用推進研修の実施(1回) ・ 上記2点の取組みを踏まえた利用教員数の上昇 3 アクティブ・ラーニングルームの活用 ・ 少人数授業、課題解決や発表を取り入れた授業、進路指導等で、これまで以上の活用を促進する。  事業計画時点での3年目の評価指標 ① 就職1次内定者率の向上 (80%→85%) ② 就職内定率100%の継続 ③ 国公立大学進学者数 (5名→7名) ④ 難関私立大学進学数 (22名→27名以上)